

令和元年度 中央区立 城東小学校 自己評価報告書

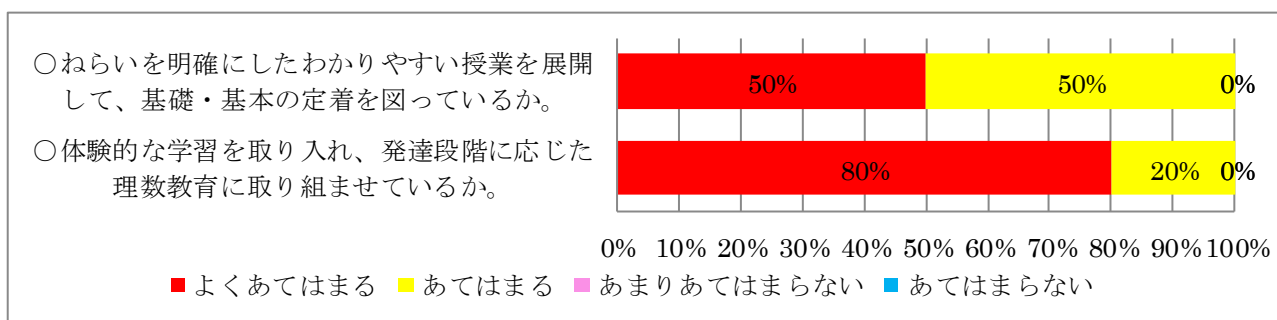
学校名： 中央区立城東小学校 所在地：中央区日本橋兜町15-3（坂本町公園内）  
 校長名： 小久保 秀雄  
 児童数 144名 学級数 6学級 教員数 13名 職員数 10名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

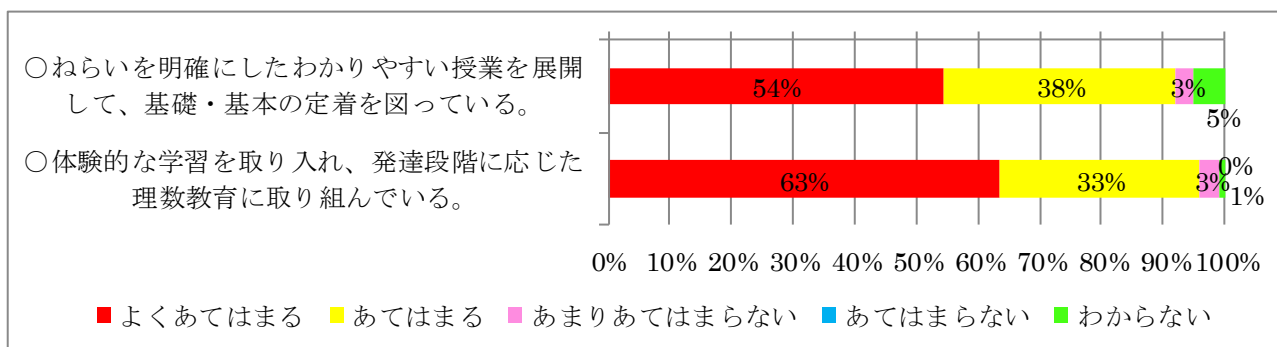
本校では、①確かな学力の向上、②心豊かな子どもの育成、③健康・安全教育の充実の3点を重点目標に掲げて教育活動を行っている。これについて、教員の自己評価を行うとともに、令和元年12月に保護者、児童による学校評価を実施した結果、以下のような実態を把握することができた。この結果を踏まえて、次年度の教育活動に生かしていきたいと考えている。

(1) 重点目標1「確かな学力の向上」について

<教員の自己評価>



<保護者アンケートによる評価>

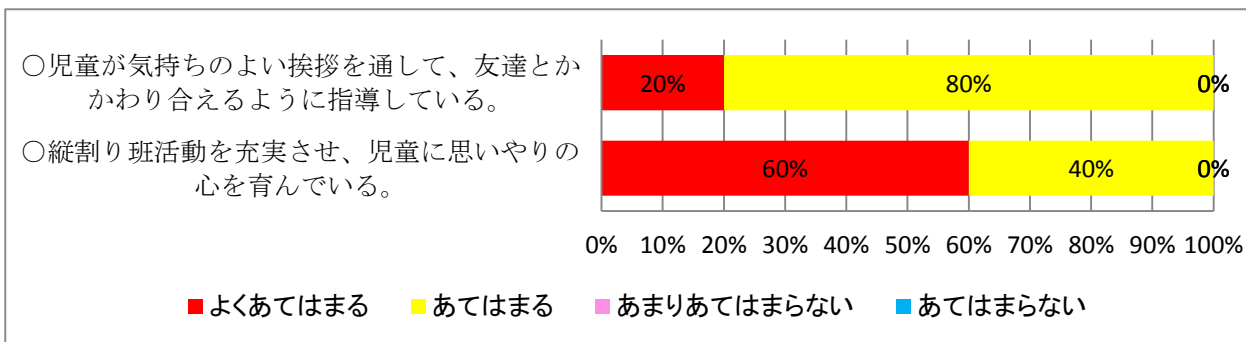


※表中の数字（％）は四捨五入のため合計が100にならないことがあります。以下同様。

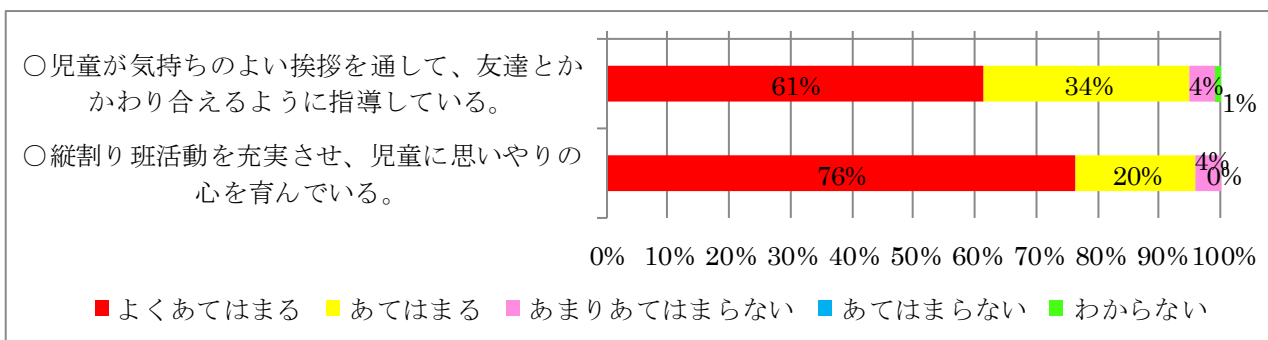
「確かな学力への向上」への取組では、昨年同様、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計で教員・保護者アンケート共に90%以上と高い評価となった。体験的な学習を取り入れた理数教育に関しては、教員の80%が「よくあてはまる」と回答したことは、この1年間で校内研究を深め、これまでの城東小学校の理数教育を一層進められたことへの自信と感じられる。今年度は、年間1回の実践報告会ではなく、年間6回の研究授業を「公開実践授業」として区の幼稚園・小学校・中学校の先生方の参観ができるようにし、互いに学び合えたことも成果として表れているところである。中央区教育会理科部会との合同授業や「理科ニュース」の定期的な発行による区内各校への積極的な発信の取組も、パイロット校としての役割を果たす一助となった。

## 2) 重点目標2「心豊かな子どもの育成」について

### <教員の自己評価>



### <保護者アンケートによる評価>

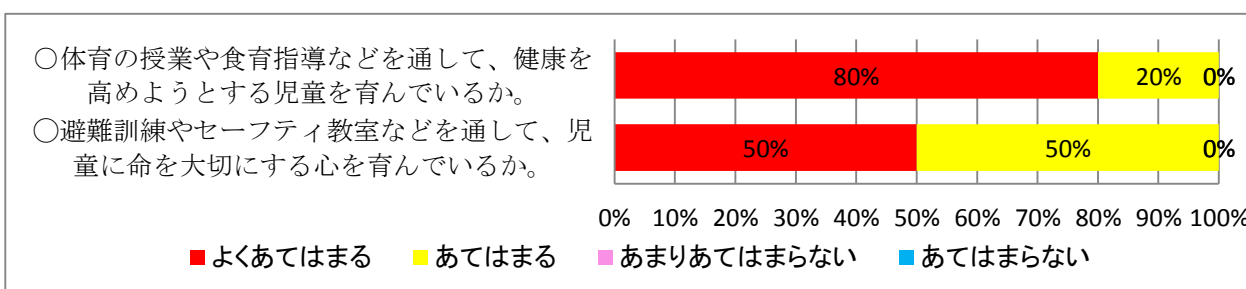


「心豊かな子どもの育成」への取組でも、昨年同様、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が教員・保護者アンケートともに95%以上と、非常に高い評価となった。また、「縦割り活動の充実」に関しては保護者のよいとする評価96%のうち「よくあてはまる」が76%であることや、児童アンケート「縦割り班活動で思いやりの気持ちを大切にしていますか。」でのよいとする評価93%のうち「よくあてはまる」は70%であることから、本校の縦割り班活動が「心豊かな子どもの育成」において大きな役割を果たしていることがいえる。今後も、1年生から6年生までが一つの班になり、給食や清掃活動を一緒に行ったり、ボランティアとして地域清掃を行ったり、休み時間に縦割り班で一緒に遊んだりする機会を設けながら、高学年はリーダーとしての自覚と責任の下に、低学年と関わる中で思いやりの心を育み、低学年は高学年の姿を見て成長していくという児童同士の学び合いの教育活動を進めていく。

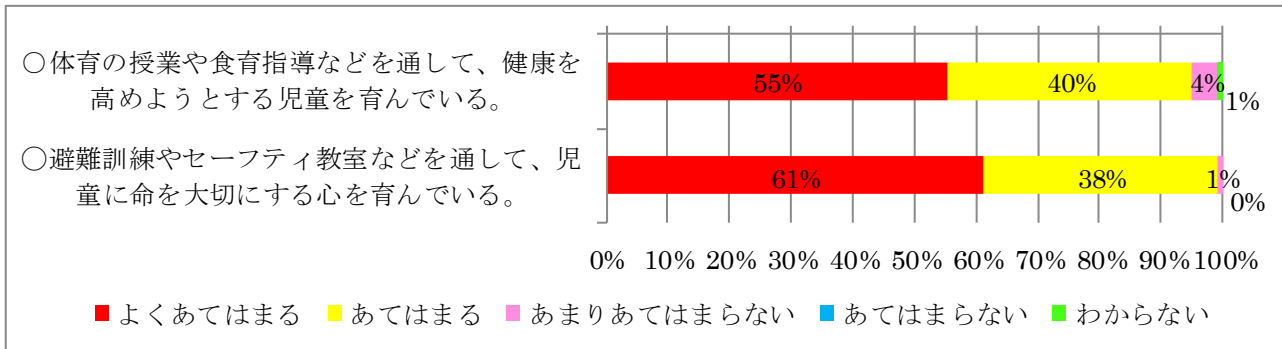
「気持ちのよい挨拶」に関しては児童もよいとする評価が95%と、教員・保護者共に高い割合であるが、「よくできている」の評価が保護者・児童共に61%と高いのに反して、教員は20%であることから、児童にさらに高い姿を求め、今後も全校での指導や各学年での指導、声掛けを通して取り組んでいく。

## (3) 重点目標3「健康・安全教育の充実」について

### <教員の自己評価>



<保護者アンケートによる評価>



今年度も「健康・安全教育の充実」を図るために、セントラルスポーツから講師を招き、「投げ方教室」「かけっこ教室」「水泳教室」「なわとび教室」「ハードル教室」「跳び箱教室」「マット運動教室」「サッカー教室」と幅広い種目で体力の向上の取組を行ってきた。こうした各種運動教室とともに、体育の実技研修や体育指導補助員との連携の充実を図ったことにより、教員の自己評価では「体育の授業や食育指導」の「よくあてはまる」が昨年度の20%から80%へ向上し、自信をもった指導を行えたことが表れている。

また、安全面においても、NTT ドコモや LINE 株式会社、警察署・消防署と連携したセーフティ教室や避難訓練等を行ってきた。こうした取組の結果、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計では教員・保護者アンケート共に 95%以上の高い評価となった。特に避難訓練では、阪本小学校との連携を図りながら、地震、火災、津波、不審者侵入など多面的に場面を想定し、安全訓練を徹底した成果だと感じている。

今後も、今年度の活動のよさを引き継ぎ、体力向上や安全確保に向けて一層充実した教育活動を目指していく。

2 重点目標以外の評価における達成状況及び達成のための取組状況

(1) 教員の自己評価より

全体総括を見ても、ほとんどが 95%以上の高い評価であり、城東小学校の教育活動を充実させるために一人一人の教員が自負をもって取り組んでいた様子が表れている。

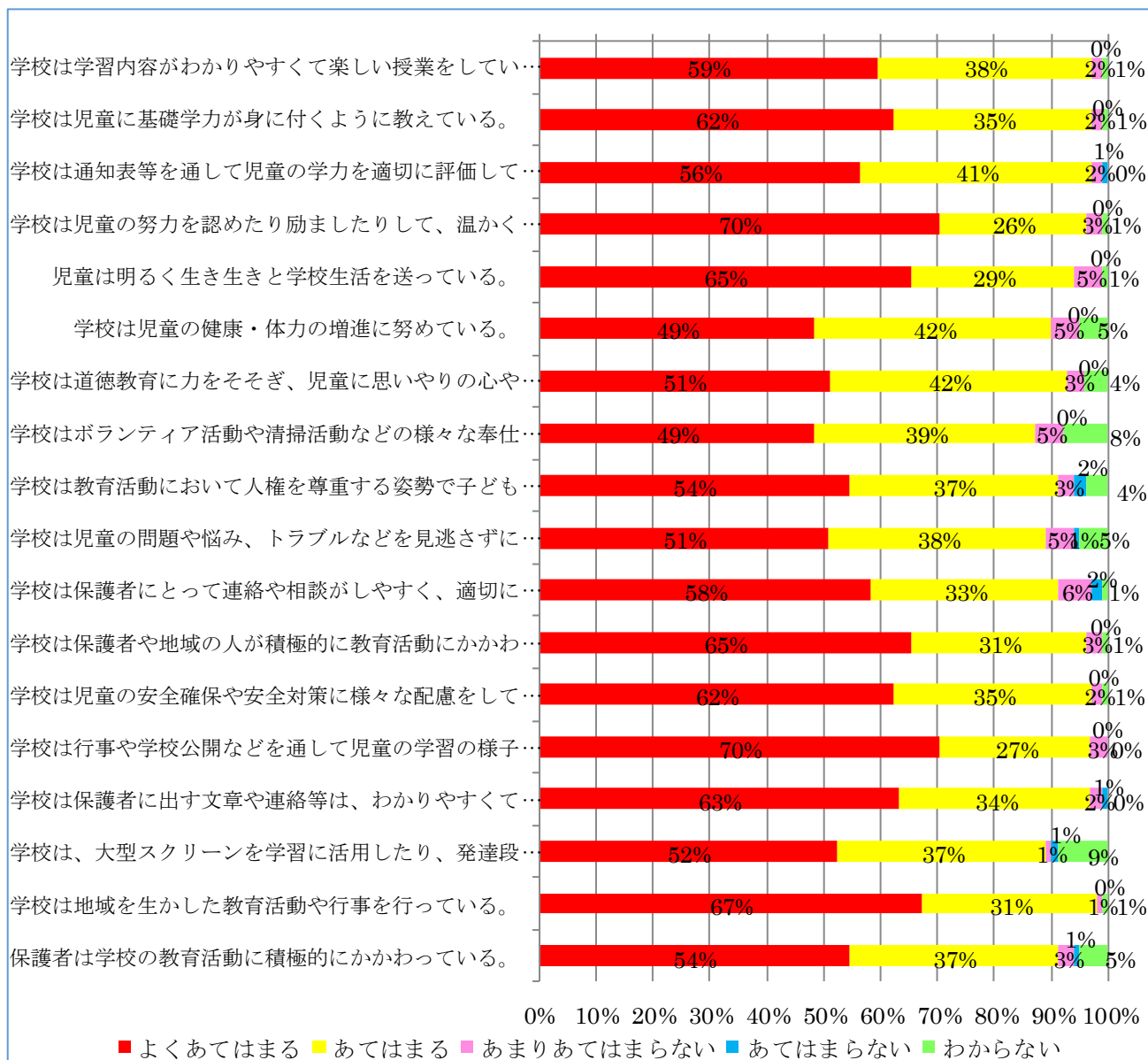
しかし、キャリア教育のとらえ方、特別支援教育のさらなる充実、学校間の連携などについては改善を図っていかなければならない。

キャリア教育については、児童が適切な自己評価をしながら次へのステップへとつなげていけるように、学期ごとの「自己の振り返り」を丁寧に行い、価値づけていくようにする。

特別支援教育に関しては、特別支援専門員の活用を通して、特別支援教室「スマイル」やスクールカウンセラーとの連携を一層図っていく。

学校間の連携に関しては、体育での合同授業を計画していたが、授業時間確保の調整が難しかった。2校合同の校舎にいる利点を生かし、各行事での参観などから始め、新校舎への移転を機に交流を広げていく。

(2) 保護者アンケートによる評価より



全体の評価については微増・微減はあったが、昨年度とほぼ同様に、18項目中15項目で「よくあてはまる」「あてはまる」が90%を超え、すべての項目が88%以上という高い評価をいただいた。

大きな変化が見られたのは、情報教育に関する項目で、「わからない」が20%以上あったことから、情報教育の取組についての学校からの発信が弱いと考え、学校公開時にパソコンを活用した授業を行ったり、学期ごとの様子を保護者会や学年便りでこまめに伝えたりした。また、質問項目の文言も「ICT機器の活用」から、わかりやすい表現へと変えた。その結果、「よい」とする評価が25%増え89%となり、「わからない」が9%に減った。次年度も、プログラミング教育を取り入れたカリキュラムを作成し、学校からの発信にも力を入れながら児童の情報活用能力の向上を図っていく。

また、「問題や悩み、トラブル」「連絡や相談」については、「迅速・誠実・丁寧」を心がけるように働きかけてきたが、昨年度と同値または微減(-3%)であった。このことは、児童アンケートの「先生は悩みなどについて話しやすいか」の項目が80%に届かず74%だったこととも踏まえて、担任だけでなく、学校組織として悩みや相談には耳を傾ける体制として、教育支援コーディネーターやスクールカウンセラーを交えた学校サポートチームの一層の活性化を図っていく。

なお、「教育活動への積極的な参加」は 91%と高く、学校公開にも多くの保護者が参観するが、保護者会・学校保健委員会などへの参加率や学校評価等のアンケートの回収率が年々低下していることには懸念をもっている。学校からの発信の工夫や PTA の協力を得るなどしながら関心を高める必要がある。

### (3) 児童アンケートの状況より

昨年に引き続き、今年度も 4～6 年児童にアンケートを行った。全体の評価では、「よくあてはまる」「あてはまる」が 12 目中 11 項目すべての項目で 85%以上となり、内 6 項目で 90%以上と、児童自身も充実感をもちながら学校生活を送っていることがうかがえる。

「先生は悩みなどについて話しやすいか」の項目のみ、74%と昨年度よりも下がった。これについては、上述の対応を進めていく。

また、「家で毎日学習していますか」の項目は 85%だったが、昨年度より 10%下がっており、家庭との連携を図りながら、取り組めない児童への対応を考えていかなければならない。

## 3 今後の改善方策

次年度は、阪本小学校新校舎移転があり、現状の教育環境と違った中での取組を模索していくことになる。2 校合同での校舎使用となるため、新しい環境の活用方法を考えながら城東小学校の伝統やよさを受け継いだ教育活動を展開し、児童の成長につなげていく。

そのためにも、教職員が一体となり、学校からの積極的なアプローチや情報発信をしながら、保護者・地域との連携をさらに密にし、P D C A のサイクルで改善を図っていく。